

自己評価報告書(最終報告)

報告者

言語系コース(国語)／余郷
裕次

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

指導要領では、「我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。」が目指されている。「我が国の文化と伝統」は、教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上と不可分の密接な関係を持つものとして捉えなおさなければならない。

①授業内容としては、教育実践コア科目を初めとする担当授業において、古典教材等を活用し、我が国の伝統的な文化である呼吸法・発声法・姿勢について扱い、高度専門職業人として盤石な基本的資質形成に努める。

授業方法としては、言語教育の基本的知識・概念のレクチャーにとどまらず、呼吸法・発声法・姿勢についての身体論的な実習を実施する。

③レポート等のペーパー上の評価にとどまらず、呼吸法・発声法・姿勢を学生のパフォーマンス(表現活動)を通して評価する。

2. 点検・評価

① 授業内容としては、前期に初等国語科教育論において長期履修生を対象に、後期に初等国語において学部生を対象に、我が国の伝統的な文化である呼吸法・発声法・姿勢について扱い、高度専門職業人として盤石な基本的資質形成に努めた。

授業方法としては、前期に初等国語科教育論において長期履修生を対象に、後期に初等国語において学部生を対象に、言語教育の基本的知識・概念のレクチャーにとどまらず、呼吸法・発声法・姿勢についての身体論的な実習を実施した。

③ 評価方法としては、後期に初等中等教科教育実践 I および中等国語科教材論において、レポート等のペーパー上の評価にとどまらず、呼吸法・発声法・姿勢を学生のパフォーマンス(表現活動)を通して評価を行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 教員採用実技ガイダンスを担当する。
- 学部学生、大学院生に対して、日頃から教員就職を促し、教員採用に関するあらゆる相談に積極的に応じる。
- 個人的に依頼された面接指導、模擬授業の指導等に積極的に応じる。
- 希望者に対して、個別に小論文の添削指導を行う。

2. 点検・評価

- ① 学部3年生合宿研修に参加するとともに、教員採用実技ガイダンス(2014年2月15日)を担当した。
- ② 学部学生、大学院生に対して、日頃から教員就職を促し、教員採用に関するあらゆる相談に積極的に応じた。
- ③ 個人的に依頼された面接指導、模擬授業の指導等に積極的に応じた。
- ④ 希望者に対して、個別に小論文の添削指導を行った。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- 10年以上取り組んでいる「絵本とその読み聞かせ」の教育的効果に関する研究を継続し、その成果を全国大学国語教育学会等で研究発表する。
- 絵本とその読み聞かせの教育的効果について、実践的・実証的研究に取り組む。
- 「絵本とその読み聞かせ」に関する絵本モニタージュ論の研究論文を執筆し、学術研究誌に発表する。
- 「絵本とその読み聞かせ」に関する単行本『絵本のひみつ—絵本の知と読み聞かせの心—』が総論的内容であったのに続き、各論編となる単行本の原稿を仕上げる。

2. 点検・評価

- ① 数年来の懸案であった連合大学院の○合の資格を取得した。
- ② 10年以上取り組んでいる「絵本とその読み聞かせ」の教育的効果に関する研究を継続し、その成果を全国大学国語教育学会(2013年5月19日)等で研究発表した。
- ③ 絵本とその読み聞かせの教育的効果について、実践的・実証的研究取り組んだ(科研費共同研究)。
- ④ 「絵本とその読み聞かせ」に関する単行本『絵本のひみつ—絵本の知と読み聞かせの心—』が総論的内容であったのに続き、各論編となる単行本の原稿を仕上げた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 児童図書室室長として、児童図書室の充実・発展のために努力し、児童図書室が開催するワークショップを担当するなど、大学の地域貢献に協力する。
- 本学が参画する一般社団法人「教育支援人材認証協会」の認定評価委員として事業の遂行に努力し、認証講座「こどもサポーター(読み聞かせ)」を担当する。
- 教員養成モデルカリキュラム研究開発委員会委員及び評価基準・評価方法開発協議会のメンバーとして、文部科学省特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の計画・実施に積極的に協力する。

2. 点検・評価

- ① 児童図書室室長として、児童図書室の充実・発展のために努力し、児童図書室が開催するワークショップ(2013年11月20日)を担当するなど、大学の地域貢献に協力した。
- ② 本学が参画する一般社団法人「教育支援人材認証協会」の認定評価委員として事業の遂行に努力し、認証講座「こどもサポーター(読み聞かせ)」(2013年10月5・6日)を担当した。
- ③ 教員養成モデルカリキュラム研究開発委員会委員及び評価基準・評価方法開発協議会のメンバーとして、文部科学省特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の計画・実施に積極的に協力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 国語科学部・附属連絡協議会を継続開催し、附属学校との研究協力活動を発展させる。
- 本学の大学教員派遣の一環として、附属中学校の授業を、附属教員と共同で担当する。
- 年間50~60回程度担当している講演会・研修会・講座等において、社会に対する大学・大学院の宣伝活動を続ける。
- 教員免許状更新講習(選択領域)の複数担当、公開講座の担当、県・大学連携による教員研修担当など、積極的に社会と連携する。
- 外国人留学生研修プログラム「日本の教育と文化」に係る講義を担当する。

2. 点検・評価

- 国語科学部・附属連絡協議会(2013年6月20日)を継続開催し、附属学校との研究協力活動を発展させた。
- 本学の大学教員派遣の一環として、附属中学校の授業(2013年11月5・12・19・26日)を、附属教員と共同で担当した。
- 講演会・研修会・講座等を年間53回担当し、社会に対する大学・大学院の宣伝活動を続けた。
- 教員免許状更新講習(選択領域)の複数(2013年7月27・28日、8月17・18・24・25日)担当、公開講座(2013年10月5・6日)の担当、県・大学連携による教員研修(2013年8月1日)担当など、積極的に社会と連携した。
- 外国人留学生研修プログラム「日本の教育と文化」に係る講義(2013年7月8日)を担当した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 「成績評価異議申し立て制度策定専門部会」主査として、「成績評価異議申し立てに関する申合せ」の制定に尽力した。その結果、本学の認証評価に貢献した。
- 児童図書室長として関わった「第42回学校図書館賞奨励賞」(平成24年度)が、本学の認証評価の主な優れた点として評価された。